

(海洋研修3) いかだ作り～遊び

1 ねらい

仲間と協力していかだ作りに取り組み、海に漕ぎ出して海のすばらしさや自然の楽しさを味わう。

2 対象 小学4年生～

3 実施可能時期 6月～9月

4 所要時間 180分

5 乗艇人数 一艇につき6人（※最大8人まで） 最大10艇まで可

6 準備物

(1) 各団体

- ・全体・・・ゴミ袋（ロープ回収用、各市町村指定の物で可）※各団体で持ち帰り
- ・班（1艇）・・・はさみ、ロープ1巻（PPロープ6mm×200m）
- ・個人・・・濡れてもよい服装（水着）、着替え、バスタオル、マリンシューズまたは濡れてもよい靴

(2) 自然の家

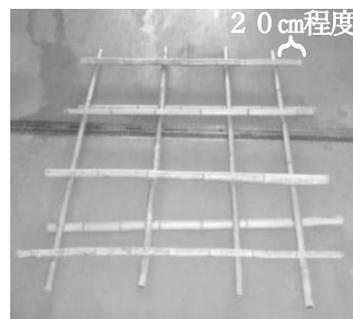
- ・個人・・・ライフジャケット（乗艇人数分）、救助艇
- ・班（1艇）・・・竹（10本）、チューブ（4本）、コンパネ（2枚）、かい（6本）

7 経費 無料

8 流れ

(1) 竹10本を、右図のように並べる。

（※以下、右図の上段の4本の竹を『上の竹』、中段の4本の竹を『下の竹』、一番下の2本の竹を『土台の竹』と呼ぶ）
 なお、上の竹と下の竹は等間隔に並べる。



(2) ロープを大人の腕の長さで「2ひろ」の長さに切る

（子どもは「3ひろ」）。…16本

(3) 上下の竹の交差しているところを、ロープで固定する。

- ・切ったロープを真ん中から折り、2本にする。そのロープを下図①～⑦の手順で結びつけ、上と下の竹を固定する（交差している16カ所を本結びで結びつける）。

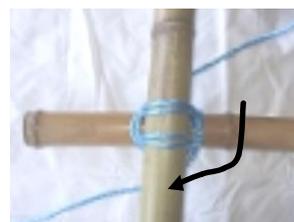


①下の竹にロープの輪の方を通す。

②輪の中にロープの端を通し引っ張る。

③交差している上の竹にロープをかける。

④下の竹の下方からロープを通し上の竹に平行にかける。



1本を反対側にまわす。

⑤元の位置に戻ったら上下の竹の間をロープで強く締める。

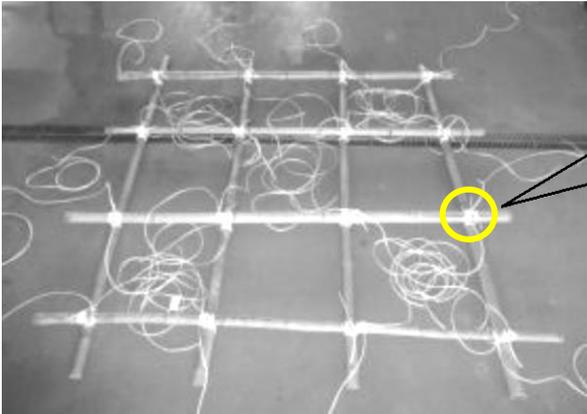
⑥ロープのひとつを残し、もう一方を反対側にまわす。

⑦上の竹の上で両方のロープを本結びし、長い分は切る。

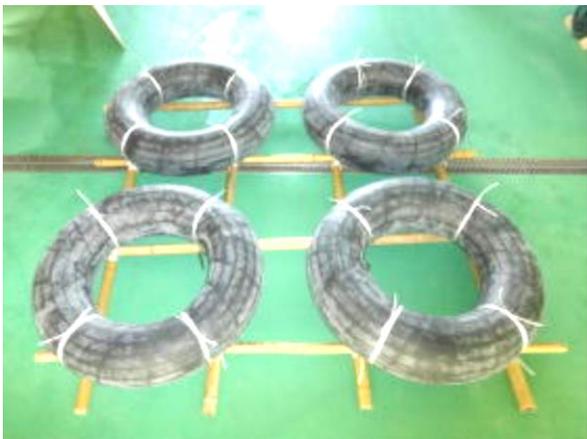
(4) 2本の土台の竹を取り除く。

(5) チューブ4本を竹に結びつける。

- ・ロープを大人の腕の長さで「3ひろ」の長さに切る（子どもは「4ひろ」）。…16本



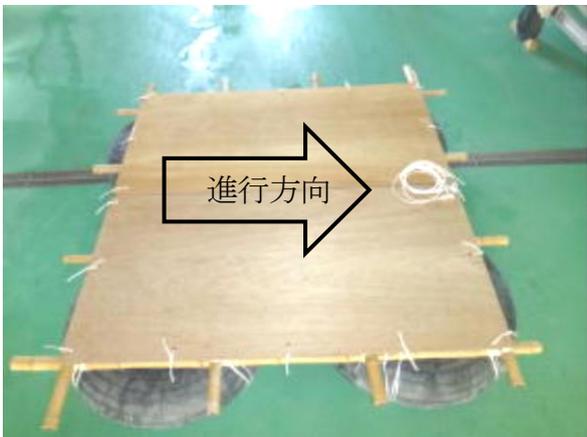
- ・切ったロープを真ん中から折り、上の竹に通す。
2本にしたロープの一本を折り曲げ、枠の中に入れる。
もう一本は、枠の外に置く（全部で16カ所）。



(6) 上の竹にチューブを4本のせる。チューブ1本につき4カ所をロープで結ぶ。

- ・結ぶ時には、チューブを軽くひぎで押さえながら、二人一組で向かい合って結ぶとバランス良くできる。余分なロープははさみで切る。

(注意：チューブを傷つけないよう、刃先を上に向けながら行う。)



(7) チューブを付け終わったらひっくり返す。コンパネ2枚を上のにのせ、穴の開いているところを先ほど切った余分なロープで結ぶ。

- ・長めのロープを進行方向の中央に結ぶ。（救助・けん引用）



(8) かいをコンパネの中央にまとめて置く。

完成！！

- (9) 濡れてもよい服装になり、ライフジャケットを着用する。
- (10) 陸上で漕ぐ練習をする。
- (11) 全員で海岸（スロープ）にいかだを運ぶ（自然の家職員の補助・引率者の協力が必要）。
このとき、チューブがパンクするのでいかだは引きずらない。また、スロープは滑るので慎重に運ぶ。
- (12) 全員で力を合わせ、目標（海上に浮かぶ旗）に向かって漕ぐ。
- (13) 終了の合図で岸に着ける（自然の家職員の補助・引率者の協力が必要）。岸壁にいかだを揚げ、自然の家の職員がロープを切る。切ったロープは、持参したゴミ袋に、全員で協力して片付ける（ゴミは持ち帰り）。
- (14) 引率者が指導し、水洗いした、かい、コンパネ、竹、チューブを指示された場所に運ぶ。
- (15) ライフジャケットを水道水で洗い、指示された場所に広げて干す。
- (16) 挨拶をした後、所に戻りシャワーで体を洗い、着替える。
※日帰り利用の場合は艇庫において体を洗う。



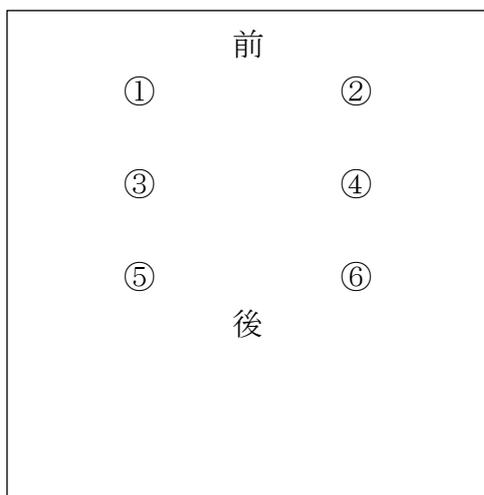
＜いかだ遊びの様子＞

9 その他

- ・活動中は自然の家職員が救助艇で海上待機し、緊急時に備える。

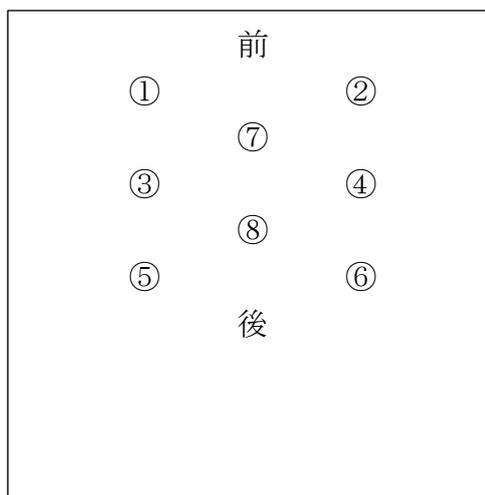
【乗艇座席表】

（6人乗る場合）



- (1) かいはいは6本。
- (2) 中学生以下は原則6人以上。

（7～8人乗る場合）



- (1) かいはいは6本。
- (2) ⑦・⑧の人は①～⑥の人と途中で交代することもできる。